

小学校教師 3 名、中学校教師 2 名、大学教員 1 名

1. 中川さんの研究授業の途中経過と出席者によるコメント。

授業案の配布。

テーマ：森鷗外著 高瀬舟

授業の展開の紹介。この時には、教科の限界と新しい試みのギャップが問題になった。

さらに授業後のフォローをどうするかを議論する。単に感想文を書かせるのではなく、授業を受けて、更に課題を与えて研究させるということも考えられるということが話題となった。

2. Dr. Thomas Jackson のインタビューのビデオの紹介。

3. このビデオを中学校生徒に見せて行った P4C の授業のビデオの紹介。

このビデオに出てくる生徒の小学生時代を知っている者からすると、自分を率直に表現しているのが印象的であった。

ジャクソン氏のビデオを見て、議論するというよりも自分を語る場面が多かった。

その後の議論で話題になった事：

- ・自分の小学校の児童は大体同じような成績の子たちが一緒に遊ぶ傾向があったが、P4C をしてから、成績の良い子とそれほどでない子とが非常に親しい友達となった。
- ・成績がもう一つだったので、親から塾に行くよう勧められて塾に通うようになったが、塾の子たちが余りにも同質的だったので、塾に通うのがいやになり、塾に通わなくてもすむように自分で勉強して、成績を上げ、実際に塾に行く必要がなくなった。
- ・子どもは、自分の意見を言っていていいかどうか不安な時には、先生を見つめて、その様子によって発言したり、しなかったりする。
- ・具体的な状況で、子どもへの教師のかかわりがやはり難しいということ。
- ・授業ではどういう展開が起これば、P4C をしているということになるだろうか。教師が子どもの発言を受け止め、「面白いねー」とかの肯定的な反応を示して、「どうしてそう思ったの」とか質問して、子どもの発言を促していくことをしていくことでいいのではないか。